



第20回 山口大学おもしろプロジェクト 4月



報告会を開催しました

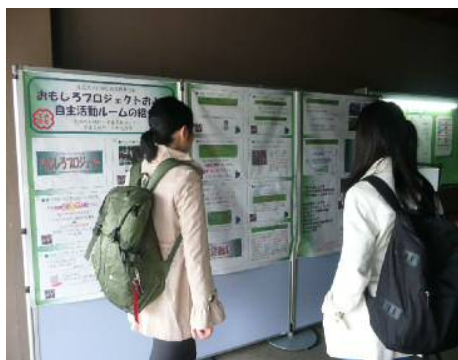
4月10日(日)に、第20回おもしろプロジェクト'15報告会が吉田キャンパス共通教育棟26番教室で開催されました。採択された10団体が1年間の活動を発表をしました。ポスター、プロジェクターを使った2種類の報告があり、それぞれたくさんの人から質問がありました。

ポスターの前で、
来場者に説明をしました



採択団体全員で記念撮影

教室では、プロジェクターを使った
発表がありました



発表後の質疑応答では、
たくさんの質問がありました



学長賞投票ありがとうございました

おもしろプロジェクト'15の活動紹介ポスターを、4月1日～15日の期間、各キャンパスに展示をし、「良かった」と思う団体を投票してもらいました。たくさんの投票ありがとうございました！

結果は5月に「おもプロ学長賞」として表彰されます。



これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています



第21回 山口大学おもしろプロジェクト



おもしろプロジェクト採択団体決定！

家庭医療べんきょう会	Code Orange
医学生・看護学生が、離島やへき地における医療施設(国民健康保健診療所など)への実習に参加し、地域医療の現状や大学附属病院との違いを理解する。また、インタビューやフィールドワーク、交流会を通じて、積極的に地域住民と交流し、地域住民の医療へのニーズ、医学生・看護学生に期待することを把握する。エキスパートを講師として招聘し、家庭医療べんきょう会以外の山口大学学生にも地域医療や家庭医療について学ぶ機会を提供する	私達Code Orangeは、山口県内における心肺蘇生法の普及を目的とするサークルで、学生・一般市民の方たちに心肺蘇生法講習会を開いている。今年で私たちの活動は8年目を迎える。過去7年間で私たちが講習を行った受講者の数は2300人を超える。今期は「START LINE」をテーマに掲げ、①新たなガイドラインに対応したメンバー教育の充実②これまで以上に地域に根ざした活動をめざすことを重点におく。①新たなガイドラインに対応したメンバー教育の充実については、2015年に5年ぶりに心肺蘇生法のガイドラインが改訂された。そこで、メンバー全員で改めて心肺蘇生法について学びなおし、質の高い受講者の自信度を上げられる講習会を行うためにはどのようにインストラクションをしていくべきか、ということについてメンバー教育を通して考案していかなければならないと考えている。 ②これまで以上に地域に根ざした活動を目指すことについては、昨年までの行事に加え現在企画調整中である介護施設職員を対象としたBLS講習会を開催し、地域の住民の方々への普及をめざす。また、これまでの活動でも行ってきた市民イベントへのボランティア参加を継続し、心肺蘇生法的重要性や私たちの活動を多くの県民の方に知ってもらおう。その他、県内の小中高校などに出向いて、それぞれのニーズに合わせたBLS講習会を開き、県内における心肺蘇生法の普及ならびに救命率の向上を目指す。
電脳飛行	ICT活用による救急搬送体制改革
平成28年8月に開催予定の、第12回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト・自動制御部門への出場、および上位入賞を目標とする。また、コンテストに出場するための小型無人飛行機の設計・製作および飛行練習を通して、機械工学(特に航空工学およびメカトロニクス工学)への理解を深めるとともに、普段の授業等では体験できないものづくりの難しさや楽しさを学び発信していく。コンテストは、インターネット中継がされるなど全国に情報発信されるため、山口大学の知名度向上やアピールにつながると期待できる。昨年と同様にオープンキャンパス等のイベントに参加して、来てくださった多くの人たちに山口大学の一部として活動内容等を知ってもらい、また他のプロジェクトと交流を行うことで、お互いの機械工学への理解を高め、他の分野についても理解を深めていくとする。	本プロジェクトは、救急医療資源の有効活用による地域における救命率の向上を実現するための救急搬送アプリケーション・ICTシステムを開発し、それが山口県で実際に導入されることを目指すものである。プロジェクト初年度の今年度は、今ある救急搬送アプリケーション・ICTシステムのデザインを元にアプリケーションデモを開発した上で、それを使ってアプリケーション・ICTシステムの有用性を山口県宇部市および宇部市山陽小野田市消防本部に対してプレゼンテーションし、今後のアプリケーションとICTシステムのさらなる改善と実導入に向けた協力関係を築くことを目標とする。 今回開発する救急搬送アプリケーション・ICTシステムは、今の日本の救急搬送制度の問題点、「増える軽症搬送患者への対応のせいで重症患者への対応が不十分になりうる」という現状を打破することを目的としている。一部の大病院に集中している救急患者のうち、超軽症患者だけを、私たちの救急アプリケーションを用いて適切な中規模以下の医療施設に振り分けることで、本当に高度な救急医療を必要とする重症患者が大病院へと運ばれるようになり、搬送時間の短縮と救命率の向上が見込まれる。
山口学生宇宙開発研究プロジェクト(スペ研)	成層圏の翼
山口学生宇宙開発研究プロジェクトは、ロケットや小型衛星などのものづくりを通して宇宙開発を行うことで、学生の宇宙への興味を実現させていく活動です。同プロジェクトは昨年度で2年目となり、これまでの活動で宇宙開発に関する技術や知識を獲得し、さらにロケットコンテストへの出場を通して他大学との交流も増えてきました。今年度は、2年間の蓄積してきた知識や技術をもとに、次世代ロケットエンジンであるハイブリットロケット、小型ローバー(CanSat)、モデルロケットの製作、この3つの研究開発を主に、3月に開催される種子島ロケットコンテストの出場を目指します。CanSatについては今年度他大学と共同で実験を行う予定もあります。	成層圏は、通常の航空機では到達できない空間で、事実上ほとんど使われていない空間です。しかしながら、成層圏は、大気が非常に薄く、安定していて、通信中継、外宇宙の観測やリモートセンシング、微小重力実験、ロケットの空中発射といった様々な用途に応用できます。通常この空間に行くためには、気球を利用します。そのため、学生でも低コストで航空宇宙開発を行うことができます。しかしながら、広い国土を持たない日本では、気球は風に流され、その可能性を大きく狭めています。また、気球は時間とともに萎縮していくため、長時間滞空することができません。このプロジェクトは、こうした現在の気球を利用した航空宇宙開発の抱える問題をドローンとソーラープレーンといった新たな航空機で解決、学生主体となった新たな航空宇宙開発の場を作り出し、宇宙を飛躍的に身近なものにし、教育、研究開発等に寄与することを目的としています。また、このプロジェクトは、成層圏を1年以上滞空し続け、地球を10周できるという現在の世界記録をはるかに上回る航空機の開発も行っています。
プロジェクトY	
ホタル保護は昨年度の3年間計画で進行しているプロジェクトの3年目です。このプロジェクトの目的は2つあります。「山口大学を含む平川地域を、ホタルの飛び交う環境にする」、「無理なく環境保全活動が行える仕組みを整える」です。最終的にこれらの目的を果たすために立てた目標は3つです。1年ごとに1つの目標を達成します。まず1つめが「ホタル、ビオトープについて、正しい知識を身に付ける、地域との情報交換を行う」、次に「身に付けた知識を生かした方法でホタルを飼育、ビオトープを管理する」、そして最終的に「ホタルの飛翔数を増加させる、得たノウハウを地域貢献活動に活かす。」です。今年度は今まで通りの清掃、飼育活動に加え、去年の備品を活用したホタル保護活動の実行、現在の問題点として挙げられた駐車場の街灯からビオトープへの光に対する遮光対策を行います。また、今年度は、改めて「ホタル飼育マニュアル」「ビオトープ管理マニュアル」の内容を検討し、修正を加えます。自分達で考えても分からない部分に関しては、1年目に繋がりを得た、知識を持つ方々にメール等で質問をしながら解決し、ホタル保護活動を行います。	

これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています



第21回 山口大学おもしろプロジェクト 6月



Code Orange

4月に新たに13人のメンバーを迎えて新年度の活動が始まりました。新メンバーの今後の活躍に期待です。さて、5・6月期のニュースは2つあります。ツール・ド・山口湾2016への救護ボランティアとしての参加と部活動講習会の開催です。5月15日に、昨年同様、山口市阿知須で開催されたツール・ド・山口湾2016に救護ボランティアとして参加しました。参加者がけがをした際の対応や、スタッフの方へBLS講習会を行ったりしました。その他、参加者の前で活動のPRをすることができました。市民の方との交流会を増やすことができ、BLSの重要性を発信できたことは非常に良い機会となりました。また、6月29日に小串キャンパスにて部活動に所属する医学部学生を対象としてBLS講習会を開催しました。インストとして構成員17名、各部活から代表として受講者55人が参加しました。「BLS」「熱中症」の2つについて講義、その後班分けを行い、胸骨圧迫・AEDを中心に講習会を行いました。



部活動講習会
にて講習を行っ
ている様子

ICT活用による救急搬送体制改革

おもプロに採択して頂いた今月より、プランの実現に向けて活動が始まりました。メインメンバーである2人(大隈、山中)が、それぞれの担当範囲である技術分野、医療分野に関して、システム活用に必要な情報をかき集める1ヶ月でした。来月1日の会議でそれらを刷り合わせて、デモプロダクトの開発に入っていく予定です。

今月はそれ以外に、NHK山口放送からの取材を受けました。おもプロにずっと目を配って頂いていたようで、その中で面白そうな新プロジェクトということで、ご興味を持って頂きました。現状、お見せできるものがないので、ということで収録・放送は遠慮させていただきましたが、年内にはデモプロダクトを製作し、市に対してプレゼンをしたいと思っており、そこを取材したいと仰っていただいています。取り組むテーマが大きいゆえに、注目して頂けているのかなと感じました。今後も、そうしたご期待に答えつつ、しっかりと結果を残せるように精進してまいります。

家庭医療べんきょう会

①今年度開催を予定している、地域住民の方とのワールドカフェ形式の交流会の運営方法を学ぶため、山口市で開催された「小児救急医療を救う！ Dr.カフェ」(主催:すこやか育ち隊)の視察を行いました(医学科4年巴、学外協力構成員・山県立大学看護学科2年廣本、深井)。実際に医療をテーマとした地域住民の方とのワールドカフェに参加し、運営の段取り、適したテーマ、人員などの具体的なイメージができ、非常に有意義な視察となりました。

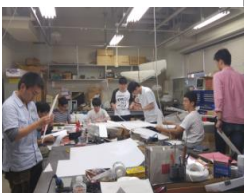
②地域医療、家庭医療に関連した学会である「日本プライマリ・ケア連合学会学術大会」に参加しました(支援教員・黒川教授、医学科5年原賀、医学科4年巴)。学会の企画で、他大学の家庭医療に関するサークルの活動紹介や交流会にも参加しました。海外も含む他大学の様々な取り組みを知り、大いに刺激を受けました。また、共通の悩み・課題を共有でき、今後の活動の方向性の決定に有益な情報を得ることができました。

③今年度第2弾の企画として、「第9回家庭医療べんきょう会」を小串キャンパスにて実施しました。



総合診療部
齊藤先生講演
「家庭医療総
論」

電腦飛行



作業風景

電腦飛行は6月7日から活動を開始しました。活動の時間帯は話し合いにより、毎週火曜日の16時頃から行っています。初回のミーティングでは、顔合わせと8月26～28日に出場する大会までの計画について話し合いました。去年と同様に、電腦飛行から一般部門と自動制御部門に出場することを考えています。昨年度より大会が1ヶ月早いので、大会までは活動日を増やすことで機体製作の時間や話し合う機会を増やしていこうと思います。次に機体の名称と設計を行う際に重要となるコンセプトを考案しました。コンセプトは、大会のレギュレーションを熟読した上で、必要と考えられる性能を洗い出すことで決定し、現在は機体の製作を行っています。また、昨年度のおもプロで得た経験などを取り入れ、操縦者が飛ばしやすい機体であることも1つの目標として製作を行っていきます。来月には、各部門の試作機の完成とテスト飛行を行い、結果をフィードバックして機体の改良を行っていききたいと考えています。添付写真は機体製作時の作業風景です。

これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています

電腦飛行

今月は、自動制御部門出場機体(名称:よこりょくん)を仕上げました(写真左側)。性能を確かめるためテストフライトも行いました。感想としては、かなり低速で飛んで飛行しやすい機体に仕上がリ、予想以上に良い出来になったと思います。この機体を利用して大会を想定した操縦練習を行い、メンバーの操縦スキルアップを図っています。しかし、本番では救援物資を乗せて飛行させる必要もあるので、今以上に機体は重くなってしまう。重量が増加すると飛行性能やパイロットの操縦感覚が大きく変化するため、早めに試す必要があると考えています。また、一般部門出場機体(名称:はやぶさ)の製作も開始しました。よこりょくんの製作を経て、作業に慣れたせいか早いペースで製作が進んでおり、主翼や尾翼等のメインのパーツは完成している現状です。あと大会まで一か月を切りました。夏休みを利用して、さらに作業スピードを上げて大会までにより良い機体を作っていきます。



よこりょくん
(左側)

ICT活用による救急搬送体制改革

いよいよ今月は、実際のアプリケーション・システムの開発に向けての最終調整の打ち合わせを行いました。どの情報がシステムに組み込まれるべきか。それぞれの情報がどこで必要になるのか。どのような形でアウトプットされるべきか。具体的な確認を細かく行いました。もちろん試作品を作るためにも、また作り終わった後にも、まだまだ多大な努力と時間が必要となりますが、兎にも角にもモノがないと始まらない当プロジェクト。なんとかモノの製作にとりかかることができそうなので、安心感と大きな喜びを感じています。プロトタイプがひとまずできれば、それを持って行政に対して、システムを採用していただくことを目指した交渉をしにうかがったり、消防にシステムについてアドバイスを貰いに行ったりすることもできていると思っています。ということで、ここからが本当のスタート。いつの日か救急搬送体制が変わることを夢見て、ICT活用による救急搬送体制改革、スタートです！



製作に向けた最終確認ミーティング

Code Orange

7月9日に吉田キャンパスで行われた七夕祭にCodeOrangeも参加しました。七夕祭は、CodeOrangeの活動を広く山口大学生、一般の方々に知ってもらいたい機会だと思っております。当日9名がインストラクターとして参加し共通教育棟1番教室で運営をしました。活動中は勧誘を行い、14名の方に講習を行うことができました。インストラクターの半分以上は新メンバーで先日の部活動講習会のときよりも、更にインストラクターとしての知識や技術の向上していました。課題としては講習者のアンケートの中で「いざというとき、自信を持って心肺蘇生法を行えそうですか？」という項目に対して6割の人が「自信がない」と回答したことです。心肺蘇生は一回で完璧にできるものではないので、継続して講習会を受けていただく大切さをもっと伝えていくことが大切ではないかと感じました。毎週水曜の定例会では、上記のとおりで特に11日20日は来年に活かすためにイベントの反省会を行いました。19日は先月雨で行えなかった頌徳碑掃除を行いました。



講習会の様子

家庭医療べんきょう会

- ①今年度開催予定の、地域住民の方とのワールドカフェ形式の交流会(多職種連携交流会)の概要を決定するため、総合診療部・教授の黒川先生と打ち合わせを行い、テーマを「認知症」に決定しました。その後、山口県内の認知症診療の第一人者である神経内科・准教授の川井先生に多職種連携交流会の主旨をご説明して、ご協力を要請し、ご了承頂くことができました。
- ②「総合診療サマーセミナー in 山口」を共催しました。講師に、亀田ファミリークリニック館山の玉野井 徹彦先生をお招きし、「総合診療医の高齢者の診かた」というタイトルでご講演頂きました。現役の医師、医療事務職、医学生、看護学生など総勢45名程にご参加頂きました。セミナーの最後には、具体的なある1人の高齢患者さんの事例を取り上げてグループワークを行い、講演で学んだ高齢患者さんを診る際の評価方法であるCGAを実践しました。
- ③家庭医療べんきょう会の月次ミーティングを行い、9月、10月の企画について打ち合わせをし、多職種連携交流会の進捗状況の共有を行いました。



総合診療サマー
セミナー in 山口

これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています



第21回 山口大学おもしろプロジェクト 8月



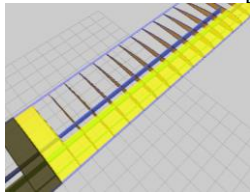
Code Orange

前期が終了したという事で、8月は夏休みとさせて頂きました。その中で、有志のメンバーにて、8/27(土)に広島県の呉共済病院にて開催された、第2回全国医学生CPR選手権大会 中国・四国ブロックに参加してきました。中四国の各大学の医学生が集合し、各個人、団体のCPRを客観的に評価できる人形を用いて、パソコン上でスコア化して順位をつけることで競い合う、という大会です。結果としては、我々Code Orangeは団体4位で残念ながら全国大会への切符を手にする事はできませんでしたが、参加メンバー各個人の反省点や改善点、そして現時点での得意な点などを客観的に捉えることができ、非常に有意義な時間となりました。来年度の同大会では一つでも上の順位を取り、全国大会へ進出できるように努力を重ねていきたいと思ひます。また、今回各個人が感じたことを学内に持ち帰り、共有することにより、今後の一般の方への普及活動に活かしていきたいと思ひます。



CPR選手権大会
参加メンバー

成層圏の翼



3DCAD上の機体の主翼内部構造

8月11日頃の成層圏往還機の打ち上げを目指して作業を進め、成層圏往還機の製作自体は無事完了しました。しかしながら、台風6,7号の影響で当初予定していた東方向の風が発生せず南方向の風が発生し瀬戸内海へ水没するコースをとることが予想されたので、打ち上げは中止することになってしまいました。天候のせい、ではありますが、当初予定していたコースが限定的で水没の可能性を軽視していたことが問題と考え、打ち上げ位置をより内陸にとり、落下予想範囲をより全方位に広げ、9月中の打ち上げを目指します。

加えて、成層圏プラットフォームとなる機体の外形が定まったので、機体のスケールモデルを作成するとともに、機体の内部構造を決定するための設計を開始し、設計が完了次第、主翼のテストピースの作成に移りたいと思ひます。そのために、まずはスケールモデルを製作するための発泡スチロールカッターなどの機材の製作に取り掛かります。

電脳飛行

今月は月末に開催される大会に向け、機体製作と操縦練習を並行して活動を進めてきました。大会直前まで機体の細かな調整を行い、最善の状態で大大会に臨みました。大会本番では、出場チーム全体のレベルの高さに驚かされるとともに、練習中の機体の破損や自動制御の不具合といったハプニングにも見舞われ、満足のいく飛行を行うことが難しい状況でしたが、その中でも悔いの残らぬよう最善を尽くすよう努めました。今年は例年と異なり、大会の開催時期が一月早かったこともあり、機体製作、操縦練習共に十分な時間を確保することが困難でした。しかし結果的には、そのことがチームの一体感を高めることに繋がり、チームとして非常に良い雰囲気で大大会に臨むことができました。結果は自動操縦部門で"よこりくん"が五位、ベストプレゼンテーション賞"フロムページ賞"、"住友精密工業賞"というものでしたが、参考点や反省点など非常に多くのものを得ることができました。今後の活動では今回得られたことを活かし、次に繋げていきたいと思ひます。



準備中...

ICT活用による救急搬送体制改革



Surface上に表示したデモ画面

いよいよ、実際の救急車内で使用して頂く予定の端末であるsurfaceを用いた開発をスタートしました。タブレットPC用のアプリ開発は、ノートPCと違いタッチ動作についても考えなければなりません。また、救急車内という揺れ動く環境や、タブレット端末に慣れていないような方でも直感的に操作できるようなインターフェイス、さらには過去のデータの参照の容易性など、様々なことを考えて開発をしていく必要があります。これからsurface上で動くアプリを開発していきますが、それらの留意点についてよく話し合いを行い、試行錯誤しながらより良いものができれば何よりだと思ひます。電子化によるメリットを最大限に引き出し、便利で使いやすいモノを作っていきたいです。まだまだ新しい開発環境に慣れず、思い通りにいかないことも多くありますが、ICT活用による救急搬送体制改革という大きなゴールに向かって、より一層頑張っていきたいと思ひます！

これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています



第21回 山口大学おもしろプロジェクト 9月



家庭医療べんきょう会

9月30日（金）に山口大学小串キャンパス・談話室にて「やまぐち地域医療セミナー2016 in 岩国 参加報告会」を開催しました。本報告会は、8月18日～20日の2泊3日で行われた「やまぐち地域医療セミナー2016 in 岩国」に参加した山口大学の医学生と山口県立大学の看護学生がセミナーに参加して体験したこと、印象に残ったこと等を、セミナーに参加できなかった学生に共有することを目的としました。報告会には、発表者10名を含めて23名の学生（県立大生6名含む）と本セミナーの実行委員長である山口県立総合医療センター・原田先生、副実行委員長の医療人育成センター・前田先生をはじめ6名の先生方、医療人育成センターの職員の方、合計30名を超える方にご参加頂きました。特に、山口大学の学生は医学科1年生が6名、看護学専攻1年生が2名と、来年度以降のセミナーに参加するチャンスが多い1年生に多く参加頂いたことは喜ばしいことでした。報告会終了後のアンケートでは、「来年のセミナーに参加したくなりました!」、「不参加の自分にも良さがすごく伝わってきた」とのコメントもあり、セミナーの魅力を伝えることができ、嬉しい限りです。



やまぐち
地域医療
セミナー2016
参加報告会

成層圏の翼

成層圏往還機の打ち上げについて、打ち上げ地点を西鳳凰山に変更し、飛行予想空域が自衛隊の訓練空域と重なったので、交渉に時間がかかり、日程は10月10日～11月10日のいずれかということになりました。また飛行可能な日時はそのうちの土日祝日のいずれかに限定され、あまり条件がいいとは言えませんが、打ち上げが遅れに遅れているので、今月で何としてでも打ち上げるつもりです。成層圏プラットフォームについては、最初に尾翼の構成を決定しました。サーボが骨組みに直結し翼全体が動く構造で、高い滑空比を確保できるとともに、2つある水平尾翼の角度に差をつけることによりエルロン操舵も可能にし、主翼から一切の操舵装置を省くことで機体構造を簡略化します。発泡スチロールカッターの製作などは今のところ進んでいません。また、双胴式という機体の特殊性もあって、既存の空力解析ソフト解析したデータに、特に誘導抗力について誤差が大きいと判断されるので、スケールモデルによるテストによってこれを検証するとともに、別の空力解析ソフトを使った検証も実施します。

電腦飛行

今月は、作業部屋の清掃と今後の活動に関するミーティング及びその後の製作活動で役立つと思われるフライス盤の講習を受けました。9月の中旬は8月に開催された全日本学生室内飛行機ロボットコンテストに向けた飛行機製作のために材料や工具で散らかった作業部屋の清掃を行いました。東京の会場に運び出した機体や修理道具などもあり、清掃は大変でしたが見違える程きれいに片付いたので今後の活動も円滑に進められると思います。また、そのときのミーティングで近年注目されていて、自分自身も興味があるマルチコプターの話が上がり、実際に電腦飛行で製作してみようとなりました。9月の中旬には、マルチコプターの製作にあたり必要になるカーボンプレートの加工を可能にするため、マイクロメカトロニクス研究室の方々にフライス盤の使い方に関する講習の依頼をお願いしました。そして、9月の下旬にフライス盤の使い方の講習を受けて、フライス盤で実際に使用する予定であるカーボンプレートから翼型の切り出しを試験的に行いました（写真右）。3mmの厚さを有するカーボンプレートは金属のように硬く、上手く加工できるかという心配がありましたが切り出された翼型は満足いく仕上がりであったため良かったです。来月からは本格的にマルチコプターの製作に取り組んでいこうと思います。



カーボン
プレートから
切り出された
翼型

Code Orange



定例会に
参加している
メンバーの様子

今月から後期が始まったこともあり、学内での活動を定例会として主に行いました。具体的には8月9月のサークルメンバーの対外活動の報告および、前期では行っていなかった救急技術のメンバーへの教育を行いました。第2回全国医学生Q CPR選手権では先月の報告通り地区予選敗退となってしまったので、来年に向けた具体的な対策を皆で話し合いました。今年度おもしろプロジェクトで申請して購入した客観的な評価ができる心肺蘇生用のシミュレーターをより有効に活用して来年度は全国へ進出したいと考えております。「2nd院内外傷救急ワークショップ@名古屋」にオレンジからメンバー1名が参加し、そこで学んだことを報告しました。普段心肺蘇生の普及を目指している私たちにとって、心肺停止に陥りそうな人を目の前にしたときどうすることができるのか、という問いかけは多くのメンバーにとって考えさせられるものでした。またメンバー教育という面に関して、心肺蘇生法ではないが身につけておいてほしい技術を、主に新メンバーを対象に指導しました。

これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています

電腦飛行

今月は先月の活動報告書で述べたように、マルチコプターの製作に着手しました。しかしながら電腦飛行でのマルチコプターの製作は初めての試みとなるため、既存のマルチコプターを購入し構造や操縦プログラムをまねて製作にとりかかるとなりました。購入したマルチコプターの組み立て説明書というものがかなり大雑把なものであったので、部品情報や配線の仕方といったことがよくわかりませんでした。そこで、似た機体の組み立て解説を参考にすることで作業を進めました。本体に付いている4本の腕にモーターをそれぞれ取り付けるとき、各腕に対してアンプを挟んで取り付けなければならないのですが、用意されているコードが長いので、短く切ってはんだ付けで調節しました。このはんだ付けがこれまでの長いコード同士のものより少し勝手が違い、固定しながらの作業だったのでなかなか難しかったのですが、工夫して完了することができました。写真は現段階での機体です。



製作中の
マルチコプター

Code Orange



ホーム
カミングデー
での
講習の様子

今月は、来月の初旬に我々Code Orangeにとって最大規模の心肺蘇生法講座を行う、医学祭を控えていますので、各々のメンバーが改めてBLSについて復習する場を多く設けました。手技的な部分はもちろんですが、講習会の参加者さんという「お客さん」を迎える上で必要なことや、インストラクターとして求められていることなどを題材に定例会を開催するなどし、メンバー内の意識統一も行っていました。また、10月29日には、おもしろプロジェクトの20周年記念式典及び第4回山口大学ホームカミングデーに医学部企画として出展させていただき、来場者の方へBLS講習を行わせていただきました。20周年記念式典では、過去のおもプロ採択者の方や広中先生のお話を耳にすることができ、今後の活動に励みたいと思いました。なお、11月5と6日に小串キャンパスにて終日心肺蘇生法講座を開催しておりますので、最後まで準備に励み、当日はできるだけたくさんの方に普及活動を行いたいと思います。

家庭医療べんきょう会

10月1～2日に「リレー・フォー・ライフ・ジャパン (RFLJ) 2016 やまぐち美称」が美称市の秋吉台国際芸術村で開催され、ボランティアとして参加しました。このイベントは、がん患者さん・がんサバイバーの方とそのご家族への支援を呼びかけるチャリティーイベントで、25カ国で開催されており、日本でも昨年は47カ所で開催されているイベントですが、山口県では今回が初の開催でした。幸い自分の身近にがんを患った人がおらず、これまでに直接がん患者さんやがんサバイバーの方のお話を聞く機会はありませんでしたが、医師・看護師を志す上で実際に患者さんの声を聴くことは大切であると思い参加してきました。イベント会場に直接足を運ばれた方はがんサバイバーの方がほとんどで、お話をさせて頂いた方は、皆さんががんを克服され、パワフルでとても明るい方ばかりでした。その一方で、イベント会場に来れず、「ルミナリエ」という提灯のようなものに思いを託された方のメッセージからは、まだまだがんは生命を脅かす病であり、患者さんにご家族に深い悲しみを与える病であることを実感しました。



RFLJ2106
やまぐち美称



おもしろプロジェクト20周年記念式典開催

1996年度より始まった「おもしろプロジェクト」は2015年度のプロジェクトの実行をもってちょうど20年が経過したことになります。これを記念して2016年10月29日(土)9時から「おもしろプロジェクト20周年記念式典」が開催されました。記念式典では、おもプロの創始者である廣中平祐先生による記念挨拶、おもしろプロジェクトを在学中に行なった4人の卒業生による講演がありました。またこの4人による「正課外活動による人間の成長」をメインテーマとしたパネルディスカッションも行われました。式典には教職員や在校生、卒業生など総計68名が出席し、これからの「おもしろプロジェクト」、大学教育における正課外活動の必要性やその意義を考える良い機会となりました。午後からはホームカミングデーの展示企画として「おもしろプロジェクトと自主活動ルームの紹介」がパネルで行なわれるとともに、採択プロジェクト間の交流茶話会も開催されました。日ごろあまり顔を合わさないプロジェクト同志の交流は大きな刺激となっているように思われました。またこの交流茶話会には廣中先生もみえられ、多くの在校生と談笑されておられました。

これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています



第21回 山口大学おもしろプロジェクト 11月



山口学生宇宙開発研究プロジェクト（スペ研）

種子島ロケットコンテストの応募締め切りが12月4日と迫っているためそれぞれのチームで申し込みに必要な設計計画書と設計計画書に必要な打ち上げ動画を撮りました。1年生の出場予定である有翼滞空部門は安全性の検証のために打ち上げ試験とロケットの作動動画の撮影が義務化されましたそのため例年よりも2か月ほど早い開発を行わなくてはならないため非常に苦労しました。打ち上げ試験については無事に打ち上げられペイロードの放出も確認することができたので、申し込み基準を満たすことができました。CanSatチームは製作した試作機の走行試験や部品の製作を行いました。GPSを用いて自律走行を行うプログラムを作成しましたがGPSそれぞれに精度の違いがあり、正確な値をとるGPSの選定に苦労しました。現在は目標値まで1メートル以内まで近づいているのでこのまま走行試験を繰り返し、0mになるように調整を続けていきたいと思います。



CanSatの試作機

Code Orange



医学祭での
心肺蘇生講座実施後の
集合写真

今月は11月5、6日の2日間にかけて医学祭で市民のための心肺蘇生講座を行いました。医学祭はコードオレンジにとって一番大切な行事であり、毎年多くの市民の方々に受講していただいています。今年度は149名の方に受講していただきました。この医学祭にむけて1ヶ月前から放課後にメンバー同士で練習を行い、技術の向上に努めました。その甲斐あって当日は、学生やカップルから親子連れやお年寄りまで幅広い方に対して、各々のニーズに合わせた講習を行うことができました。また、昨年度の反省を生かした結果、受講者アンケートの満足度や理解度の改善が見られました。受講した方の声の中に「もっとこの活動をPRしてBLSを広げてほしい」とあり、もっと団体としてのPRを強化していかなければならないと痛感しました。11月24日には医学祭の振り返りを行い、来年度に向けて良かった点や改善すべき点を話し合いました。来年度は今年度の反省を活かしてより良い医学祭にしたいと思います。

電腦飛行

今月は11月27日に行われた常盤祭の準備としてマルチコプターの製作などを引き続き行ってきました。マルチコプターの製作では機体を購入した際に導入されていたマイコンが壊れ、バッテリーの電力不足で機体が飛ばないなど、数々の問題が起きたため常盤祭までにマルチコプターを飛ばすという目標は達成できませんでした。しかし、初の試みとしては様々なことを学ぶことができる良い機会であり、今後も電腦飛行の活動としてはマルチコプターに向き合っていきたいと思います。実際、常盤祭では第12回室内飛行ロボットコンテストに出場した大会機やポスターの展示、大会機のデモ飛行、来てくださった方に電腦飛行の活動についての説明などを行い電腦飛行のアピールを行いました。また、来てくださった方が参加できるような、紙グライダーの製作や紙飛行機対決など遊んで学べるような企画を行うことでものづくりに興味を持ってもらえることができたと思います。写真は常盤祭で来てくださった人に大会機について説明してるところです。



常盤祭での活動発表
大会機の説明や
デモ飛行の実施など

これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています

家庭医療べんきょう会

12月10日（土）に島根大学医学部卒後臨床研修センター・和足 孝之先生をお招きし、総合診療部と「闘魂フィジカル塾 in 山口」を共催しました。学生だけでなく、現役医師の先生方にも多くご参加頂きました。呼吸音について丁寧な講義をはじめ、和足先生の冗談を交えた情熱的なセミナーに加え、現役医師と学生がグループとなって症例について検討を行うグループワークもあり、大変学びの多い会となりました。2月5日（日）開催予定の「YUMEカフェ」について、神経内科学講座 准教授・川井先生と打ち合わせを行いました。本会のメイン企画であるワールドカフェのテーマや、認知症サポーター養成講座としての申請、講演の演題について検討しました。フライヤー・案内状が完成し、来月から市民の方への案内・参加受付を開始予定です。3月25～26日に開催予定の「PIPCセミナー in 山口大学」について、PIPC事務局・宮崎先生、木村先生、総合診療部 准教授・齊藤先生と打ち合わせを行いました。フライヤー・案内状が完成し、学生に向けた案内・参加受付を開始予定です（医療従事者への案内は12月末より開始）。



「闘魂フィジカル塾 in 山口」
開催

電脳飛行



マルチコプター作業部屋の
大掃除

今月は、マルチコプターの飛行試験、新機体の設計・製作、活動納めとして工具や材料で散らかっていた作業部屋を約3ヶ月ぶりに掃除を行いました。新機体の製作では、来年の飛行ロボコンに向け機体の議論を行い、上反角を大きく付けることを意識して安定性を向上させ機体を水平姿勢に保つことを目標に設計・製作に取り組みました。まだ機体は完成に至っていませんが、来年には納得のいく機体を完成させたいと思います。マルチコプターの方もまだまだ問題はありますが、来年にはなんとか飛ばせるようにしたいと思います。今年最後の作業では、僕たちがお世話になった作業部屋を掃除しました。飛行できなくなった機体の解体を行い、特に自分たちが頑張って作ってきた機体を解体していくときは少し悲しくなりました。しかし、片付けたおかげで部屋を広く使うことが出来、効率よく作業に集中できると思います。これからも機体の製作で、またすぐに散らかるかと思いますが大切に作業部屋を使い活動していきたいと思っています。

自主活動交流会 開催のお知らせ

下記の日程で「自主活動交流会」を開催いたします。自主活動交流会とは、「おもしろプロジェクト」採択団体の学生をはじめ、自主活動にとりくむ学生、興味がある学生などが集い、自身のこれまでの活動状況や、これからの山口大学の正課外活動の在り方について話し合う場です。ふるってご参加ください。

場所：医学部 総合研究棟1階 S1大講義室
吉田地区からは送迎あり

日時：2017年2月15日18時15分～20時

問い合わせ先：学生自主活動ルーム

これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています

家庭医療べんきょう会

①昨年末よりオダムラデザイン様と打ち合わせを行ってきた「家庭医療べんきょう会のロゴ制作」について、今月も引き続き打ち合わせを行いました。頂いたデザイン案に対して家庭医療べんきょう会のメンバー内（OB・OG含む）で投票を行いました。投票の結果選ばれたデザイン案を元に更に調整し、バリエーションを追加した上で最終投票を行い、ロゴデザインが決定・完成しました。今後、家庭医療べんきょう会を学内・学外ともにより一層周知できるようにこのロゴを有効活用していきます。②2月5日（日）開催の「YUMEカフェ」のフライヤーを作成し、市民の方々、医療従事者の方々への案内を開始しました。また、会場となる霜仁会館、後援頂く医学部附属病院・総合診療部と打ち合わせを行いました。③3月25日～26日開催予定の「PIPCセミナー・ベーシックコース in 山口大学」の学生向けの案内を開始しました（医療従事者への案内は昨年末より開始済み）。開催に向け、POPC事務局の先生方、医学部附属病院・総合診療部、医学部経理係等との打ち合わせ・相談を行いました。



家庭医療べんきょう会
ロゴ

電脳飛行



新機体

今月は、先月の活動に引き続きマルチコプターの製作と来年度の大会に向けた新しい機体の製作を行いました。マルチコプターの進捗状況は、以前行った飛行試験で離陸する際に機体の姿勢制御がうまくいかなかったため、姿勢制御の調整を行っています。マルチコプターを購入したときに付属していたフライトコントローラーを使用せず自作したものを使用し、プログラミングも私達が自作しているため非常に困難な作業となっています。また、新機体の方は完成し、来月に飛行試験を行う状況になっています。今回の機体のコンセプトは、今まで作ったことのないものにするため、上反角を今まで以上に大きく付け、その機体に横力板を取り付けました。今までの横力板機では上反角を付けずに作ってききましたが、上反角を付けた機体に横力板を付けると、どのように飛行するのかを確かめるために製作しました。新しい要素を取り入れ、飛行させることで得た知識を来年度の大会に活かしていければいいと思っています。

ICT活用による救急搬送体制改革

本プロジェクトの今年度の活動における集大成とも言える、宇部市および宇部・山陽小野田消防局へのプレゼンテーション・システムデモンストレーションを、1月12日に、宇部・山陽小野田消防局消防本部にて実施した。消防の方々からのリアクションは非常によく、大いに興味を持っていただいたようで、「こんなことはできるか」「こうした方がいいのでは？」といったような質問やアドバイスをたくさん頂いた。今後はそれをもとに改善を加えつつ、来年度は更に機能を追加し、実用を目指した開発を続けていきたい。このプレゼンテーションには、朝日新聞社、KRY山口放送、宇部日報が取材に訪れ、2社は翌日記事およびニュースとして配信してくださった。このようにメディアを通じて取り組みの周知を図ることで、一般の方々の間で救急医療や救急搬送に関する興味関心が高まれば、救急車の適正利用や、救急搬送システム導入への期待感への高まりに繋がることも考えられるため、非常に良かったと思う。



システム
デモンストレーションの
様子

これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています

家庭医療べんきょう会

2月5日（日）に小串キャンパス・霜仁会館にて「YUMEカフェ」を開催しました。宇部市民・山陽小野田市民の方々、行政職、医療従事者、医学生と立場の異なる50名近くの方にご参加頂きました。医療従事者は、医師、（認知症看護認定）看護師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、臨床心理士等、多くの医療職の方にお集まり頂きました。また、医師も、神経内科、脳神経外科、精神科、総合診療科とご専門の異なる8名の先生方にお越し頂きました。YUMEカフェは、「お茶やお菓子を頂きながら、和気藹々とした雰囲気の中で認知症について語り合う」ということを基本コンセプトとして企画しました。メインのワールドカフェ開始前には、神経内科学講座・准教授の川井 元晴先生から認知症についてご講演頂き、宇部市高齢者総合支援課の職員の方から宇部市の認知症施策についてご紹介頂きました。会終了後のアンケートでは、「ワールドカフェは病院主催になるとどうしてもかたくなりますし、変な意味で上下関係（医療者・患者・市民関係）にもなりやすいため、学生主催という形はとてもよいと思いました。」等の激励のコメントを頂きました。



宇部日報 Y U M E カフェ記事

認知症テーマに意見交換

お菓子楽しみながら気軽に

Y U M E カフェ

認知症の話題が医療者や家族の間でよく聞かれるようになった。認知症は高齢者の割合が増えるにつれて、社会問題として注目されている。山口大学は、認知症に関する研究や実践を進めている。YUMEカフェは、認知症について、医療者、学生、市民が意見を交換する場を提供している。今回は、認知症に関する講演や、認知症の経験者からの話を聞いた。YUMEカフェは、認知症に関する情報を得るだけでなく、認知症の経験者からの話を聞くこともできる。認知症は、高齢者の割合が増えるにつれて、社会問題として注目されている。山口大学は、認知症に関する研究や実践を進めている。YUMEカフェは、認知症について、医療者、学生、市民が意見を交換する場を提供している。今回は、認知症に関する講演や、認知症の経験者からの話を聞いた。YUMEカフェは、認知症に関する情報を得るだけでなく、認知症の経験者からの話を聞くこともできる。

電腦飛行



新型機のテストフライト

今月は、引き続きマルチコプターの製作と来年度の大会に向けて製作した新しい機体の修理と飛行実験を行いました。機体は安定性も高く、想像以上に飛ばしやすく、また機体が軽量なこともあり小さな旋回半径での旋回も可能であることが分かりました。今後は製作した機体同様の上反角がある主翼を備えた横力板機で室内飛行ロボコンに出場したいと思っています。また、今年度、2度目のおもプロ自主活動交流会に3名が参加しました。交流会では5、6人のグループを作って自己紹介や自主活動での経験についてグループメンバーに話し、グループを組み直してから「未来のおもプロ・自主活へ」というテーマで旗を作りました。他のおもプロの学生とも意見交換ができる貴重な機会となりました。そして、FMきららの「ススメ！工学部」において3名がゲスト出演しました。電腦飛行が設計・製作している飛行機や現在取り組んでいるマルチコプターなどについて、パーソナリティの瀧本先生と楽しくトークすることができました。

おもしろプロジェクト報告会 開催のお知らせ

下記の日程で「第21回おもしろプロジェクト'16報告会」を開催いたします。2016年度に活動を行った7つのプロジェクトがその成果を発表します。当日は口頭発表のほか、ポスターセッションも行われますので、プロジェクト実施学生にも気軽に質問ができます。おもプロに興味のある方、29年度に応募してみようかと考えている方など、多数の来場をお待ちしています。

場所：共通教育棟 15番教室

日時：2017年4月9日12時～16時10分

問い合わせ先：学生自主活動ルーム



これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています



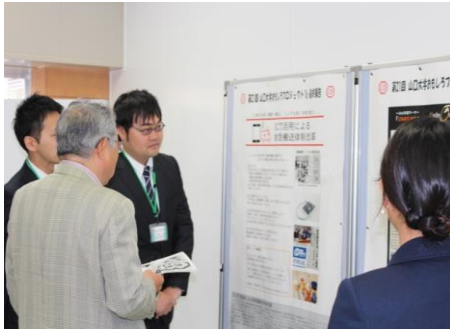
第21回 山口大学おもしろプロジェクト 3月



第21回おもしろプロジェクト'16最終報告会を実施



4月9日（日）に、吉田キャンパス共通教育講義棟15番教室にて、第21回おもしろプロジェクト'16の報告会が開催されました。2016年度は7つのプロジェクトが採択され、1年間をかけて自身のプロジェクトを遂行しました。当日は12時からポスターセッションが行なわれ、自身で作成した大判ポスターを前に来場者の質問に対応していました。また13時からは口頭発表が行なわれ、パソコンのプレゼンテーションファイルを用いてより詳しく1年間の成果を発表しました。閉会時には福田機構長より「一時的、短絡的な受け身のおもしろさではなく、本当に『おもしろい』ものを見つけてそれを形にしようと今後も努力してもらいたい」という講評をいただきました。



ポスターセッションの様子



口頭発表の様子



口頭発表にて活発な質問

第22回おもしろプロジェクト'17を募集

「山口大学おもしろプロジェクト」は、自由な発想に基づく正課外活動実施のための資金支援制度です。1996年より開始されており、20年以上の長い歴史があります。そして現在では山口大学の特色ある教育プログラムの一つとなっています。これまでに233件のプロジェクトが採択され、2330人も学生たちがおもしろプロジェクトの根幹である「発見し・はぐくみ・形にする『知の広場』」を体験してきました。

現在、「第22回おもしろプロジェクト'17」の企画を募集しています。今年度は、募集区分として、「通常型」（最高支援額50万円）、「Light型」（最高支援額10万円）、「テーマ型」（最高支援額10万円）の3つを設けています。「通常型」は従来通りで、昨年度等の継続に伴う課題解決プロジェクトもこれに該当します。「Light型」では、今はまだ小さな芽ではあるがこれから発展していくであろう萌芽的なプロジェクトを募集しています。「テーマ型」では、「自転車問題・山口市／宇部市の活性・日本の伝統文化・防災」という4つのうちの一つのキーワードをもとに企画したものです。

**皆様からの「おもしろい」プロジェクトを
待っています**



キミのやる気を応援します

**第22回
おもしろプロジェクト'17
プロジェクト募集**

おもしろプロジェクト(おもプロ)とは
学生の自主的・創造的企画に資金支援する山口大学オリジナルの学生支援事業です

【募集要項・申請書】

山口大学ホームページ「おもしろプロジェクト」
からダウンロードできます

締切日 4月28日（金） 13:00必着

【問い合わせ先】

学生支援部学生支援課企画係 学生自主活動ルーム

電話 083-933-5087

メール omopro@yamaguchi-u.ac.jp

**これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**